

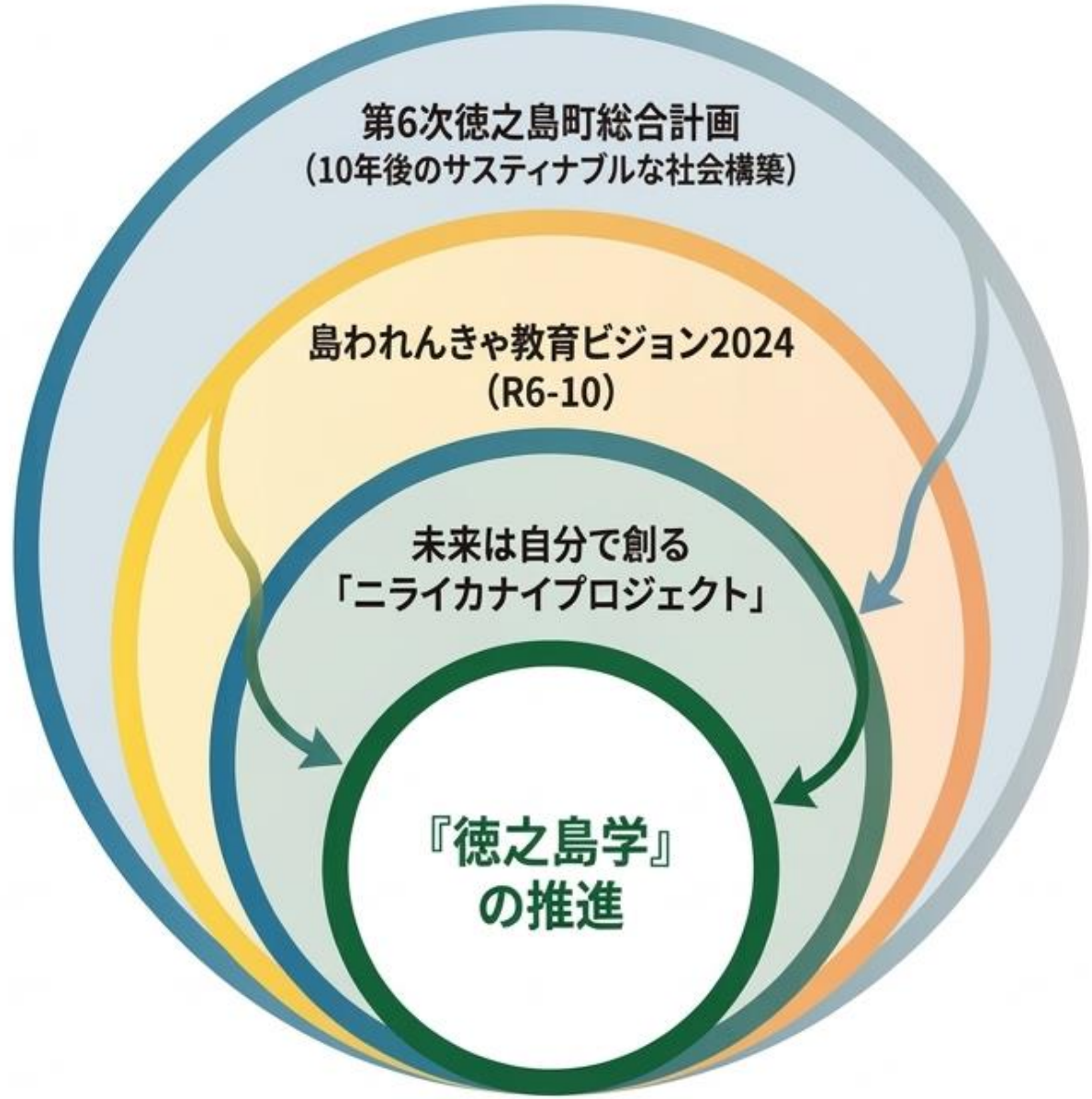
徳之島の歴史と未来創造

持続的ウェルビーイングの獲得を目指す教育
『徳之島学』がはじまります。

発行：徳之島町教育委員会学校教育課
編集：主幹兼指導主事　森　迪直
改訂：令和8年11月Web版改訂

世界自然遺産の島から、最先端の学びの町へ。

2021年の世界自然遺産登録を機に、
島の宝である子どもたち（われんきゃ）の
未来を広げる教育改革が始動しました。
これまでの「日本の歴史」だけでなく、
足元の「郷土」を深く知り、
徳之島から未来を創造する人材を育てる。
それが『徳之島学』です。



世界を知る前に、私たちは自分の島をどれだけ知っているでしょうか？





・2021年7月、徳之島は「世界自然遺産」に登録され、その魅力が世界に広く知られるようになりました。
・しかし、学校の授業で「郷土・徳之島」を深く探求する機会は限られていました。

徳之島の視点から未来を見つめる。それが、私たちが目指す新しい教育の原点です。

「未来は自分で創る」――
ニライカナイプロジェクトが
始動します



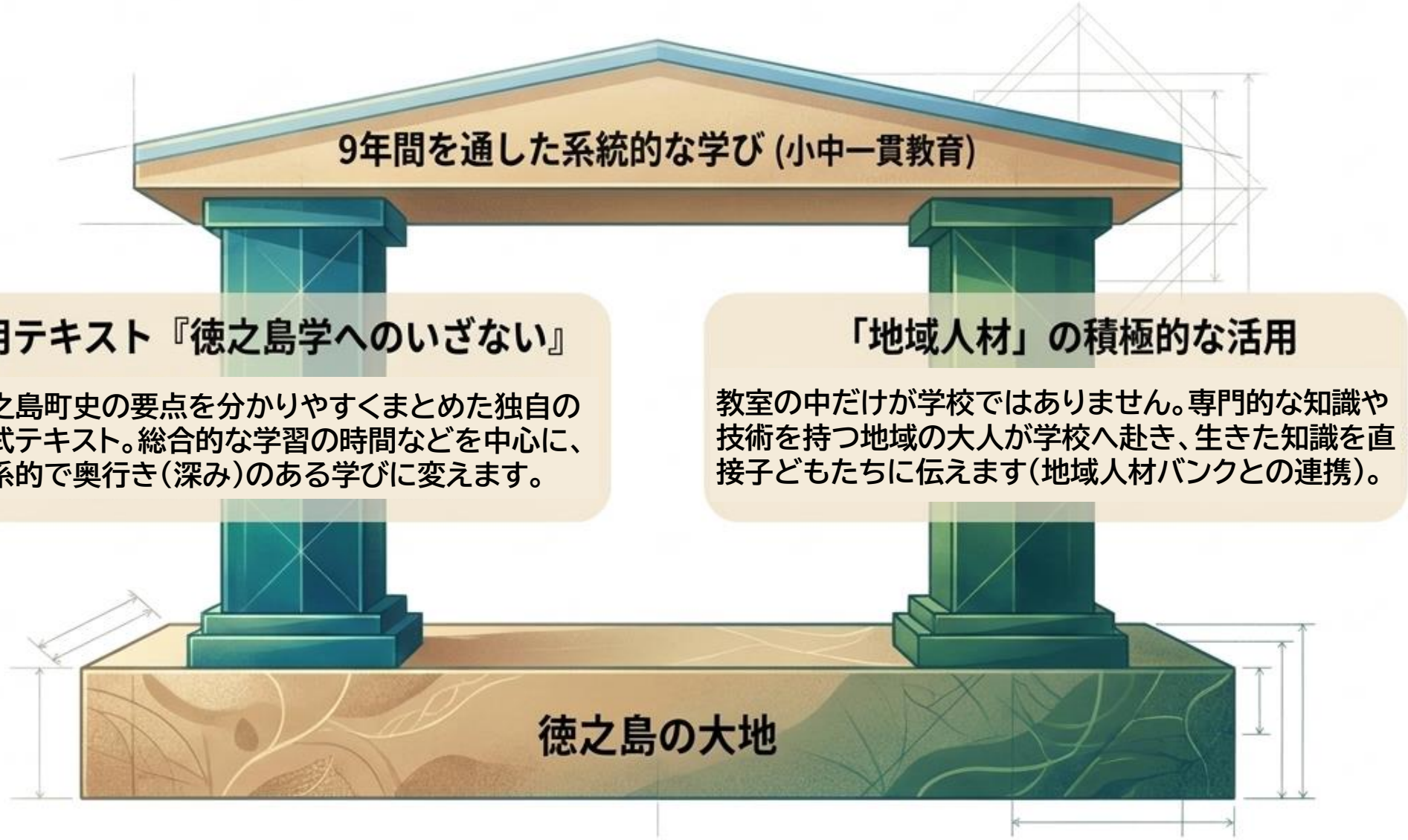
『島われんきゃ教育ビジョン2024』の柱となる独自の教育カリキュラムです。

単なる「新しい科目」ではありません。

学校・家庭・地域が一体となり、郷土の歴史や風土を徳之島から未来を創る人材を育てる「仕組み」です。

小学校から中学校まで、成長に合わせて途切れることなく学びを深めていきます。

9年間の学びを支える、2つの大きな柱



専用テキスト『徳之島学へのいざない』

徳之島町史の要点を分かりやすくまとめた独自の公式テキスト。総合的な学習の時間などを中心に、体系的で奥行き（深み）のある学びに変えます。

「地域人材」の積極的な活用

教室の中だけが学校ではありません。専門的な知識や技術を持つ地域の大人が学校へ赴き、生きた知識を直接子どもたちに伝えます（地域人材バンクとの連携）。

予測困難な時代を生き抜く「見えない力」を育む



思考・探究

課題を見つけ、
自ら考え抜く力

誇り・愛

徳之島を愛し、
大切にする心

行動・創造

仲間と協働し、
未来を創り出す力

非認知能力

＝テストの点数では測れない、やり抜く力、好奇心、思いやりのこと。

ESD・SDGs

＝私たちの島の美しい自然と暮らしを守り、
未来へつなぐための学び。

くり返すたびに深く、強くなる「学びのスパイラル」



スパイラル学習のメリット

発達や学年の段階に応じてテーマを反復することで、単発の授業では得られない圧倒的な「理解の深まり」を生み出します。

学びが誇りに変わり、次への好奇心を生み出す「成長のエンジン」



「われんきゃポイント」

地域活動やイベント参加で貯まる町独自のポイント制度が、主体的な学びを後押しします！

徳之島をまるごと学ぶ、4つの学習領域

自然・環境

世界遺産センターを活用し、
豊かな自然とSDGsを学ぶ。

歴史・文化

郷土資料館や地域人材から、
先人の偉業とルーツを学ぶ。

交流・体験

道の駅や史跡を探検し、体験活動を
通して実践的な知識を習得する。

探究活動

PBLやSTEAM教育を通じ、島を
良くするための課題解決に挑む。

PBL = 課題解決型学習 / STEAM = 科学や芸術を融合した総合学習

「徳之島学」の授業は、こんなふうに変わります

【歴史・文化】



「なぜ徳之島では
『米』を作らないの？」



社会科の授業で『徳之島学へのいざない』を読み解き、島の地理と歴史から答えを探求します。



【自然・環境】



「アマミノクロウサギの
交通事故を減らすには？」



世界遺産センターへ足を運び、SDGsの視点から具体的な解決策を主体的に思考します。



【交流・体験】



「島の伝統料理を
作ってみよう！」



地域人材バンクの専門家を学校に招き、家庭科の調理実習で実食。
生きた文化を体験します。



【探究活動】



「自分が暮らす徳之島を
もっと良くするには？」

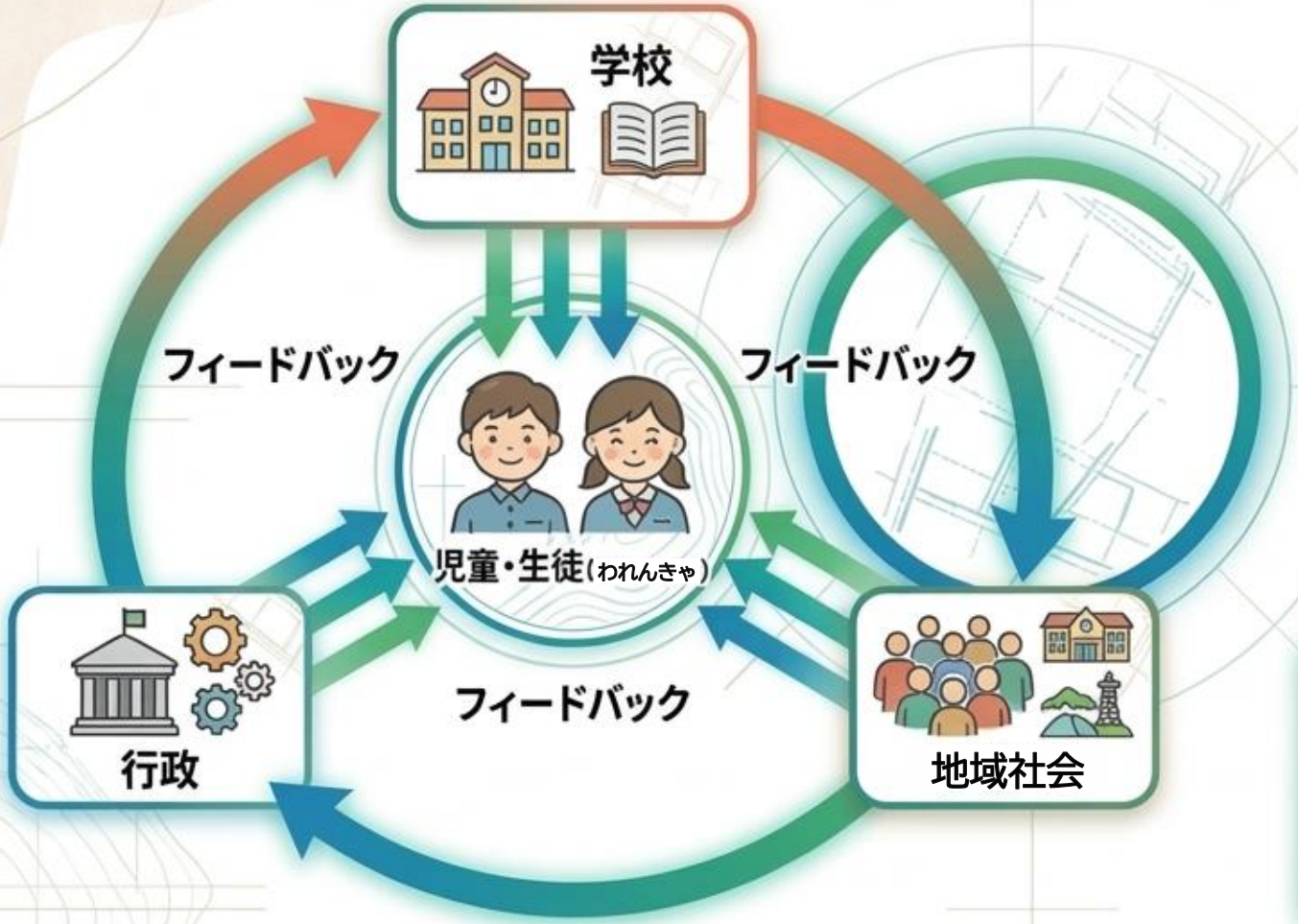


チームで協働し、具体的な解決策や実現のためのプロセスを大人に向けて提案します。



学校だけでなく、地域社会全体で子どもを育てる

学習意欲と自己調整力を高めるため、社会全体でフィードバックの機会を増やし
『ESD-SDGs』を推進します。



【われんきゃポイント制度】

イベント参加や各種検定で取得できる、
徳之島町独自の「地域振興券型ポイント」。
子どもたちの頑張りが、直接地域の
活性化にもつながる独自の取組みです。

統一カリキュラム実施へのロードマップ



令和10年度～：全体共有・本格実施

徳之島町全体で共有されたカリキュラムに基づき、全校で質の高い授業を実施します。

令和8～9年度：共有・ブラッシュアップフェーズ

各校区の好事例を相互にカリキュラムに取り入れ、内容を磨き上げ、再構築していきます。

令和7年度：準備・試行フェーズ

これまでの地域学や文化体験を「4領域」に編成。可能な部分から一部実施し、実践内容を常時共有できる環境を推進。
各学校区で小中一貫カリキュラムの構築を目指します。


最先端の学びの町・徳之島町へ。
新しい学びを推進するためには、学校だけでなく、地域のみなさまの深いご理解とご協力が不可欠です。
島全体がひとつの大きな学び舎となり、子どもたち（われんきゃ）が未来を創る力を育むために。
一緒に、徳之島の新しい教育の扉を開きましょう。
徳之島町教育委員会